

八月十七日 顯如在判
能登惣門徒中へ

【名願寺文書】 鳳至郡

二二七〇

爲志銀子百匁到來候。懇志之至悦入候。就其人間は老少不定のならひ候間、はやく雜行雜修をすて、一心に彌陀に歸する心の疑なければ、必極樂に往生すべき事、さらくうたがひあるまじく候。かやうにやすくたすけ給ふ事のうれしさありがたさよとおもひて、念佛申され候べく候。相構てく油斷なくたしまれ候べく候。あなかしこく。

七月廿八日 教如在判

能州鳳至郡

クロシマ村

太郎右衛門

兵右衛門

彌三

【上書】 志衆中 教如在判

【願慶寺文書】 越前

二二七一

爲志銀子百匁到來候。懇意之至有難おぼへ候。抑安心一儀事不珍候へども、諸の雜行雜善の心を抛て、一心に彌陀如來後生たすけ給へと申さん人々は、みな悉極樂に往生すべき事疑あるべからず候。此上には佛恩報謝のために、稱名念佛申べきばかりに候。此通幾度もく談合候て、無油斷たしまれ候はんずる事肝要にて候。各へ其旨能々御披露せらるべく候也。穴賢く。

四月十三日 教如在判

越前坂北郡吉崎 志衆中

加州米郡所々 志衆中

二 畠山氏關係文書

【祇園社記】

二二七二

卷數一枝令頂戴候。目出候。次扇子二本到來候。喜悅候。仍雖輕微候。鳥目千疋進之候。尙々祈念本望候。恐々謹言。

八月五日 義(畠山) 統 在判

祇園^(社)修行御房

【古蹟文徴】 二二七三

雁二到來候。賞翫悦喜候。謹言。

極月廿七日 義(畠山) 統 在判

天野加賀入道殿

【天野文書】 二二七四

就作善之儀。点心新貳百疋到來候。悦喜候。謹言。

十月五日 義(畠山) 統 在判

天野加賀入道殿

【天野文書】 二二七五

雜載

加賀入道章慶跡之事、當知行不可有相違候。謹言。

五月十日 義(畠山) 統 在判

天野彦次郎殿

【八坂神社文書】 山城 二二七六

爲年始御祈念、護・牛玉・卷數各頂戴候。喜悅候。尙々於神前丹誠之由候之條、本望不少候。彌連々懇祈可爲肝要候。恐々謹言。

二月廿三日 義(畠山) 元 在判

寶壽院

【八坂神社文書】 二二七七

誠祝儀萬幸候。仍守給候。目度候。尙々祈念之由祝着候。恐々謹言。

三月十八日 義(畠山) 元 在判

寶壽院